

# 「主と」新聖歌431番

1. 今までの私の人生 一つの出会いで生まれかわり  
黒く重いとびらは開かれ  
一つの光が射し込んできた

\* イエス・キリストの愛を今 おさえきれずに ウウウ  
私は生きています とこしえまでも生きる 主と

2. 地平線のはるかかなたに 幸せは何かと  
叫(さけ)んでみても  
人々のいつわり 雲となり 昨日(きのう)まで真実  
知らないままに 【\*くりかえし】 (次)

# 「主と」新聖歌431番

3. 私は登ります カルバリ 祈る心に つきさす思い  
血に染(そ)まった主イエスの十字架  
私も背負って 地(ち)の果(は)てまでも

\* イエス・キリストの愛を今 おさえきれずに ウウウ  
私は生きています とこしえまでも生きる 主と

# Footprints

主とわたしで 歩いてきた この道

あしあとは ふたりぶん

でも いつのまにか ひとりぶんだけ

消えて なくなっていた

主よあなたはどこへ 行ってしまったのですか

わたしはここにいる あなたをおぶって

歩いてきたのだ

あなたは何も おそれなくて良い

わたしが ともにいるから

新聖歌211番 「天(あめ)なる喜び」

- 1 天(あめ)なるよろこび こよなき愛を  
たずさえ降(くだ)れる わが君(きみ)イエスよ  
救いの恵みを あらわに示し  
卑(いや)しきこの身に 宿(やど)らせたまえ
- 2 いのちを与(あた)うる 主よ とどまりて  
われらの心を とこ宮(みや)となし  
朝(あした)に夕べに 祈りをささげ  
たたえの歌をば 歌わせたまえ

【次】

新聖歌211番 「天<sup>(あめ)</sup>なる喜び」

- 3 われらを新たに 造りきよめて  
栄えに栄えを いや増<sup>(ま)</sup>し加え  
御国<sup>(みくに)</sup>にのぼりて み前に伏<sup>(ふ)</sup>す日  
み顔の光を 映<sup>(うつ)</sup>させたまえ

アーメン

## 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌220番 「恵みの光は」

- 1 恵みの光は わが行(ゆ)き悩む  
闇路(やみじ)を照らせり 神は愛なり
- \* われらも愛せん 愛なる神を
- 2 うき雲 覆(おお)えど み顔の笑(え)みは  
さやかに照りいず 神は愛なり 【\*】
- 3 憂(うれ)いするときにも 望みを与え  
慰めたまえり 神は愛なり 【\*】
- 4 ものみな移(うつ)れど 恵みの光  
永遠(とわ)にぞ輝く 神は愛なり 【\*】

アーメン

## 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあげさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン



新聖歌62番 「天(あま)つみ民も」

天(あま)つ み民も

地にある者も

父 子 御霊(みたま)の神をたたえよ

神をたたえよ

アーメン